



# 体育祭。

そう呼んでいる時間。

まもなく、運動会、いや、体育祭の時間が訪れます。

待ちきれない私たちは、ほんのちょっぴり、  
一足早く、垣間見てしまいましょう。



そういえば、何時から始まったのだろう

## 令和2年度 体育祭への誘い



小学校の時は運動会。



なぜ呼び方が違うのか。

疑問は  
ドンドン湧いてくる。

実施 令和2年9月3日  
体育祭総練習



下関市立 文洋中学校



WITH コロナ の新時代。

新しい“日常”のなかでの体育祭。



体育祭の始まりは、1874年。  
1874年といえば明治の時代。



3月21日のこと。



イギリス人英語教師  
フレデリック・ウィリアム・ストレンジ  
の指導によって行われた、

## 競闘遊戯会だ。

ストレンジ先生！  
ものすごい名前の競技大会ですね。



なんとも言えない語感だが、  
英語の方に意味があるのだろう。



その後、1878年5月25日。  
札幌農学校で行われた大会がある。

その名を「**力芸会**」という。

これを引き金に、道内一円の小中学校で開催された。



1883年には東京大学でも催されていた。

ブームとはものすごく速い。

その後、初代文部大臣森有礼により、  
体育を薦めるために全国へと伝播する。

了

ふと、村落共同体のハレの舞台を思い出した。  
かつてはあったと祖父が話していた。



2

一本の川の水を求めて、  
巨大な綱を用いた綱引きや、



村はずれから村はずれまでの距離をひたすら走るといふものだ。



そこには、ひたすらという言葉が似あう。

力の限りを出し尽くし、  
その姿を人々に見せ、その姿故に応援する、  
心を揺さぶる舞台。



それが、ハレの舞台。

可能性という名の、祈りの姿なのかもしれない。  
運動会とは、そうしたもののなのかもしれない。

それは、まるで、あの物語ではないか！



ならば、メロスよ。走るのだ。

人々は、メロスのように、蒼き流星となって、走るのだ！

待っている友のため。  
その歩みが続く限り。



鼓動が打ち鳴らす音を聞く限り。  
ただひたすらに。



ゴールという祈りに向かって！



体育祭まで、あと3日。



走れ文中、風よりも早く。



台風なんかには負けるな！

応援練習も、着々と仕上がり、ひたすら改良に勤しむ日々。



これは、  
《新世界》の体育祭。

体育祭当日を、乞う。ご期待！